

13. 労働安全用具技術分野における 国際標準化アクションプラン

1. 分野の全体概要・最近の動向

労働安全用具技術分野で扱う国際標準化は、防護服、安全靴、安全帯、ヘルメット、呼吸用保護具、保護めがね等、労働者の安全を確保するための労働安全用具に関する国際標準化である。

労働安全用具関係の国際標準化は、主にISO/TC85（原子力）/SC2（放射線防護）及びTC94（個人用安全-保護衣及び保護具）で進められ、その活動は次の通りである。

[ISO/TC85（原子力）/SC2（放射線防護）]

α 線、 β 線、 X 線、 γ 線などの放射線による人体の被ばく防護を目的として、ガラス線量計、固体飛跡線量計、OSLなどの個人線量計、各種線源、遮へい体、防護服、性能要件の設定及び環境放射能の測定等の国際規格を扱っている。

[ISO/TC94（個人用安全-保護衣及び保護具）]

放射線以外の各種災害から人体を保護するための衣服及び機器の品質と性能に関する国際標準化を進めている。

TC94の下の、SC毎の活動状況等は以下の通りである。

[SC1（安全帽）]

1987年以降委員会活動は停止していたが、米国の幹事国引き受けにより、2002年に第1回会議が開催された。しかし、現在は活動休止状態となっている。WGでの活動項目は次の通りである。

（WG1）テスト用人頭模型、（WG2）試験方法、（WG3）用語と定義、（WG4）表示関係（警告を含む）、（WG5）反復衝撃用（スポーツ用等）、（WG6）1回衝撃用（産業用等）

[SC3（安全靴）]

現在、委員会活動はISOからCENに実質的な活動が委ねられており、BS規格を基本としてISOで審議されるケースが多い。

[SC6（保護めがね）]

委員会は長く休眠が続いていたが、2002年から活動を再開。各WGでの活動項目は次の通りである。

（WG1）定義、（WG2）試験方法、（WG3）サングラス、（WG4）職業における目と顔面保護、（WG5）スポーツにおける目と顔面保護

[SC13（防護服）]

現在、次のような項目で活動を行っている。防護服については産業界の関心が高く、

日本の意見も多く反映されている。

(WG1) 防護服の一般特性、(WG2) 熱と炎に対する防護服、(WG3) 危険化学薬品及び生物学的危険物質に対する防護服、(WG5) 機械的作用に対する防護服

[SC14 (消防用個人防護装備)]

現在、次のような項目で活動を行っている。消防庁の関心の高い分野である。

(WG1) 一般要求事項、(WG2) 建物火災用個人防護装備、(WG3) 原野火災用個人防護装備、(WG4) 有害物質用個人防護装備、(WG5) レスキュー用個人防護装備

[SC15 (呼吸用保護具)]

現在、次のような項目で活動を行っている。なお、欧米と我が国では人体の体格と労働環境に格差があるため、欧米主導（重量形）で規格化が進むと日本製品（軽量形）は国内だけのマーケットに限定される恐れがある。

(WG1) 一般事項、(WG2) ろ過式呼吸用保護具、(WG3) 給気式呼吸用保護具

2. 重点TC・SCの選出及び国際標準化戦略（中期的計画及び課題）

2.1 労働安全用具技術分野における重点TC・SC

6.(1)に示す。

2.2 重点TC・SCにおける国際標準化戦略

労働安全用具の品質を維持していくためには、国内法規（労働安全衛生法）への適合と国際規格を含めた適切な規格の開発が重要である。特に、市場の国際化の進展に伴い国際規格の役割が益々重要になってきている。

また、この分野の国際標準化は、国によって労働環境の違いや安全に対する考え方の違い等により難しい面があるが、欧米主導で規格化が進めば、我が国の製品は国内だけのマーケットに限定されてしまう懸念や国際市場への参入ができなくなる危惧がある。

さらに、当該分野における日本製品・技術のレベルは高いため、日本製品・技術の国際規格への取り入れが図られれば、日本製品の国際市場における認知・展開が期待できる。

このため、今後は、国内における国際標準化活動の啓蒙普及、国際的にイニシアチブを取れるようISOへの国際規格の提案、中長期的には国際幹事・議長の引き受け等を行うべく活動していく。また、国際会議には必ず出席し、我が国の意向を国際規格に的確に反映させていくこととする。

3. 重点TCの活動状況

○ I S O / T C 9 4 (個人用安全—保護衣及び保護具)

現在議長が不在の状況であり、2000年以降国際会議が開催されていない。そのため、各SC間での調整が必要な問題が未解決のままとなっている。

○ I S O / T C 9 4 / S C 6 (保護めがね)

WG1、WG3及びWG4はWDの作成・審議中。WG2は各WGの要求事項を確認し、WD作成中。WG5は各国の規格収集中。

○ I S O / T C 9 4 / S C 1 3 (防護服)

2007年2月に韓国(ソウル)でSC13の国際会議が開催され、活発な議論が行われた。審議の遅れが生じている一部の規格や、期限切れとなり廃案の恐れのある規格がいくつかあるため、我が国はプロジェクトリーダーに働きかけ問題解決を図っている。

現在、WG1(防護服の一般特性)では、制定された規格が2件、審議中の規格が5件ある。WG2(熱と炎に対する防護服)では、制定された規格が10件、審議中・見直し中の規格が9件ある。WG3(危険化学薬品及び生物学的危険物質に対する防護服)のうち、危険化学薬品に関しては、制定された規格が9件、審議中・見直し中の規格が5件ある。生物学的危険物質に関しては、制定された規格が5件、審議中・見直し中の規格が3件ある。WG5(機械的作用に対する防護服)では、制定された規格が13件、審議中・見直し中の規格が3件ある。

○ I S O / T C 9 4 / S C 1 4 (消防用個人防護装備)

WG2(建物火災用)、WG3(原野火災用)、WG4(有害物質用)、WG5(レスキュー用)と、消防活動分野別に、頭頂のヘルメットからメガネ、呼吸器、防護服、安全帯、足先の靴まで、統一した考え方で標準化することを目的としている。ただし、各国の事情があるので、最小限の性能をType-1、欧州規格をType-2、米国規格をType-3とする3タイプ[°]の基準を作る方針である。

なお現在は、極めて多数の製品と専門技術分野を包含した一大基準作成を狙っているため、審議が進まない状況である。

○ I S O / T C 9 4 / S C 1 5 (呼吸用保護具)

現在活発な活動が行われており、WG・PGレベルの会議も頻繁に開催されている。現在までに新業務項目として承認されているものが8件(IS:6件、TS:2件)あり、そのうちDIS承認済みのものが1件、TS承認済みのものが1件ある。

4. 我が国の活動実績(2006年)

(1) 全体概要

労働安全用具は、労働者の労働安全の確保を目的として、国内ニーズ、法規等に適合するように製品の開発・普及が図られてきた。このため、労働安全用具の関係者は国際標準化には関心が薄かった。しかし、数年前のJISの国際統合化を契機に国際標準化への関

心が高まり、ISOを基準とした国際標準化に取り組み始めたところである。最近になり、労働安全用具業界としても国際標準化の重要性が共通認識となりつつあり、国際標準化活動に積極的に取り組みつつある状況となっている。

過去、国際会議開催の実績は、平成12年度にTC85（原子力）/SC2（放射線防護）を東京で開催したのみであったが、最近では、平成16年度にTC94（個人用安全-保護衣及び保護具）/SC14（消防隊員用個人防護装備）を東京で開催し、平成17年及び18年度はTC94（個人用安全-保護衣及び保護具）/SC15（呼吸用保護具）を東京で開催するなど国際会議を積極的に誘致している。また、TC94/SC6及びSC15においては人頭模型の測定データ、軽量型（日本型）防毒マスク等を部分提案し、我が国の意向を国際規格に反映すべく努力している。

（2）活動実績

6. 参考資料集の(2)に示すとおり、以下の数値となる。

- ①新規提案規格数：0件
- ②国際会議参加実績：14回延べ61人
- ③日本での開催実績：1件
- ④幹事国・議長等の引受実績：0件

5. 我が国の活動計画（2007年）

○ISO/TC94（個人用安全-保護衣及び保護具）

昨年、幹事国（豪州）に対し議長に立候補する意向を表明した。本年度は議長就任に向けてPR活動等を行っていく。

○ISO/TC94/SC6（保護めがね）

WG2におけるテスト用人頭模型について、我が国の人頭模型の測定データを平成18年度に提出し、人頭模型寸法へ盛り込むよう提案しているところである。本年度も必要に応じて追加データを提出する等により、引き続き提案していく。

○ISO/TC94/SC13（防護服）

「生物学的危険物質に対する防護服」及び「微粒子防護用密閉服」を提案することを前提として、データ収集等に取り組む。

○ISO/TC94/SC14（消防用個人防護装備）

審議を促進させるため各国メンバーに働きかける。また、国際規格へ我が国の意向を適切に反映すべく、国際会議への出席、必要な意見の提出等を積極的に行っていく。

○ISO/TC94/SC15（呼吸用保護具）

昨年我が国から提案した軽量型（日本型）防毒マスクが規格に盛り込まれる方向で議論

が進んでいるため、これを確実にすべく、会議への出席、必要な追加データの提出等を積極的に行っていく。